

東奥日報

2025年(令和7年)7月23日(水曜日) (15)

若い世代に建設業の現場で使われている最新技術を知ってもらい、業界への就職につなげようと、県はこのほど、八戸市の八戸工業大学で新技術体験学習会を開いた。同大工学部工学科建築・土木工学コースの3年生約40人が参加し、仮想現実（VR）などを活用した技術を体験した。

体験学習会は国土交通省東北地方整備局青森河川国道事務所の協力を得て開催。学生たちは同整備局の職員によるインフラ分野でのDX（デジタルトランスフォーメーション）推進や、離れた場所から遠隔で重機を操

建設業新技術知って

八工大で
県が学習会

八戸



VRを用いた技術を体験する学生

作し、作業の省人化に取り組んでいる事例などに関する講話に耳を傾けた。

講話後は、これからつくる橋や道路の完成イメージをVR上で作成し、作業手順や構造を3次元で確認できる技術や、工事の発注者と受注者が現地で行っ

ている現場立ち合いを、カメラを使用してリモートで行う遠隔臨場などを体験した。

参加した下道桂吾さん(20)は「建設業でも最先端の技術や機械の活用が進んでいることが分かり、卒業後の進路の参考になった」と話した。（大庭菜摘）

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」